

# 議題 1. 2017 年度事業報告

## I. 総務会

### 1. 委員

担当理事 河合 富士美（専務理事・聖路加）、城山 泰彦（順大）、児玉 閲（東邦大医）、諏訪部 直子（杏大医）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 4月10日

第2回 6月29日

第3回 10月16日

第4回 2月21日

2) 第88回総会を2017年5月19日に聖路加国際大学（東京都）で開催した。

3) 第89回（2018年度）総会を2018年5月28日に日本教育会館（東京都）にて開催することとし、実行委員会（委員長：児玉理事）を立ち上げた。

4) 2017年度地区会事務局連絡会議を2017年11月27日に開催した。

5) 2017年度委員長会議を2018年1月17日に開催した。

6) 韓国医学図書館協会秋季学術大会（2017年10月18日~21日）へ水上理事と市川美智子委員長（医療・健康情報）を派遣した。

7) 地区会へ理事を派遣した。（2017年10月6日北信越、東北、2018年3月12日東海）

8) 協会出版物の電子版販売、および会員価格での販売を検討した。

9) 著作権ポリシー検討会議を2017年10月30日に開催した。総務会、出版委員会、機関誌「医学図書館」編集委員会、組織・制度委員会の担当理事、及び有識者として松下茂氏（個人会員）で検討することとした。

10) 奨学基金の使い方と長期財政計画については継続審議とした。

11) 患者・一般市民向け支援に関する事業を運営できる委員会設置については継続審議とした。

12) INFOSTA・医学中央雑誌刊行会と2018年1月9日に情報交換を行った。

13) その他、理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

14) 事務局運営のサポートを行い、事務局体制につき検討した。

### 3. その他

担当委員会のあるものは、当該委員会の事業計画（案）を参照

### 4. 今後の課題

1) 未着手の重点事業目標に取り組む。

2) 役員及び委員会の業務負担を軽減するよう業務精査及び事業の見直しが必要である。

## 5. 事業別報告

### 1) 医書電子化検討ワーキンググループ

#### (1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 児玉 闕 (東邦大医)

委員 岩井 雅史 (信大医)、角谷 永 (慶大医)、河合 富士美 (聖路加)、  
今野 穂 (札医大)、田口 宣行 (埼医大)

#### (2) 事業計画と年間目標の達成状況

##### ①委員会の開催

第1回 4月27日

第2回 9月28日

第3回 1月25日

##### ②日本医書出版協会(JMPA)との意見交換

JMPA との間で、国内医書電子化に関する意見交換を3度行った。JMPA では、医書.jp を立ち上げ、2018年1月から電子ジャーナルの施設向けサービスを開始した。電子ブックの施設向けサービス実現に向け、JMPA が提案する提供モデルについて、意見交換をした。

##### ③国内医書利用実態調査

2015年度に実施したアンケート結果について、報告の準備をした。

#### (3) その他の報告事項

吉岡文委員 (浜医大) が2017年4月1日の異動により辞任、後任に岩井雅史委員 (信大医) が着任した。

#### (4) 今後の課題

①JMPA との国内医書電子化に関する意見交換の継続

②国内医書利用実態調査の結果報告

## 6. その他の実績

### 1) 会員の動向

入会

正会員 A

武庫川女子大学附属図書館

正会員個人 8名

退会

正会員個人 3名

2018年3月31日現在の会員数

正会員 A 100機関

正会員 B 45機関

正会員個人 113名

協力会員 2機関

維持会員 17機関 (団体)

維持会員 3名 (個人)

- 2) 寄付 (助成金)  
株式会社紀伊國屋書店  
丸善雄松堂株式会社
- 3) その他  
資料の共同購入ほか  
図書館年鑑 33冊 478,500円  
インセットテープ 28、29回 合計180,300本 176,749円  
NLM 複写依頼 3,457件 4,338,500円  
KMLA への文献複写提供実績 9件

## II. 企画・広報委員会

### 1. 委員

- 担当理事 城山 泰彦 (順大)  
委員長 黛 崇仁 (東邦大医)  
委員 川崎 かおる (岩医大)  
会員統計担当ワーキンググループ (WG)  
青木 裕子 (天理病)、田中 律子 (滋慶院大)、徳江 紀子 (国がん)、  
戸村 裕菜 (東医大)  
重複交換担当 WG  
青木 裕子 (天理病)、戸村 裕菜 (東医大)  
要覧担当 WG  
曾田 昌弘 (関医大)  
ホームページ担当 WG  
藤沢 靖子 (杏大医・グループ長)、森田 ゆかり (藤田学園大)、  
鷹野 祐子 (都医学研)

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

- 第1回 1月12日  
会員統計ウェブフォーム構築検討会議 7月7日  
会員統計担当 WG 検討会議 1月12日  
重複交換担当 WG 検討会議 1月12日

#### 2) 企画・広報委員会

- (1) 委員会体制の整備  
委員追加と委員長を決定し、委員会・WGを再編成した。
- (2) JMLA 90周年記念クリアファイルの作成・配布  
第88回総会にあわせて、作成・配布した。
- (3) JMLA メーリングリスト (ML) の管理・整備

既存の関東地区会と近畿地区会に加えて、新たに東北地区会を作成した。

(4) 委員会の方向性の確認

傘下 WG の活動が円滑に進むよう調整・支援することを最優先課題とする。

また“2016年度～2019年度 重点事業目標”である、国立国会図書館への蔵書寄贈システムは、国立国会図書館との協議を前に、提出フォーム等の作成を進めた。

3) ホームページ担当 WG

(1) ウェブサイト更新体制

ホームページ担当 WG と中央事務局の協働により、遅延なく更新できている。

(2) ウェブサイトの管理・運営

「掲載内容の把握」、「更新依頼の手順」、「更新依頼時に伝えていただきたい情報」をまとめ、第 2 回理事会において担当理事にお願いした。

4) 会員統計担当 WG

(1) 第 88 次会員統計

2017 年 10 月 25 日に完成版をウェブサイトに掲載した。

(2) 提出方法の変更

Excel ファイルの提出から、ウェブフォームへの入力に変更した。

(3) 統計項目の追加

医療・健康情報委員会からの要望を反映し、項目を追加した。（「10.協力」）

(4) 未提出館への対応

ワーキンググループで対応してきたが、“会員の義務”でもあるため、中間報告以降は理事会に対応いただくことをお願いした。

(5) 第 89 次会員統計に向けて

第 88 次のウェブフォーム方式を改良して、作業方法等の再検討をする。

5) 重複交換担当 WG

(1) 重複雑誌交換 ML

2017 年 7 月 18 日に会員 ML に対して、重複雑誌交換 ML の案内を配信した。

(2) 第 68 回（2017 年度）重複雑誌交換事業の実施

2017 年 8 月 21 日に案内状を送付し、交換期間を 2 回設けた。第 1 回（データ送付：2017 年 8 月 28 日～9 月 15 日、交換：2017 年 10 月 2 日～20 日）と、第 2 回（データ送付：2018 年 1 月 15 日～2 月 2 日、交換：2018 年 2 月 19 日～3 月 9 日）で実施。

実績報告書は 2018 年 3 月 23 日〆切、集計結果は機関誌とウェブサイトに掲載

(3) 第 69 回重複雑誌交換に向けて

例年通りのスケジュールで進められるよう検討する。

6) 要覧担当 WG

(1) 冊子体の発行

隔年発行のため、2017 年度の発行なし。

(2) 『要覧 2016-2017』変更点のウェブサイト公開

冊子体発行以降に改訂された規程や名簿等は、組織・制度委員会とホームページ担当 WG の共同により、速やかに最新版を本会ウェブサイト上に掲載している。

(冊子とウェブサイトの掲載内容が異なる場合はウェブサイトを優先)

### 3. 今後の課題

- 1) 委員会体制の構築
- 2) 委員会・WGの作業手順・業務分掌の明文化・マニュアル整備
- 3) “2016年度～2019年度 重点事業目標”を指針として、事業計画を策定する。

## Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集委員会

### 1. 委員

担当理事 平 紀子 (個人)

委員長 大谷 裕 (東邦大医) [2017年5月まで]、浅野 泉 (旭医大) [2017年6月より]

委員 石井 恵 (個人)、伊藤 智輝 (北里白)、大野 圭子 (個人)、菅 修一 (個人)、半澤 智絵 (東北医) [2017年5月より]、百留 悦子 (埼医大)、藤村 三枝 (滋医大)

編集協力委員 佐々木 圭 (北大)、菅野 久美子 (秋大医)、相澤 まゆみ (都済生中央)、原 猛 (長野看大)、榊原 佐知子 (愛医大)、山下 ユミ (京府医大)、田中 孝次 (徳島蔵)、高橋 知江 (久大医) [2017年8月まで]、平山 紀子 (久大医) [2017年8月より]

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 5月31日

第2回 8月3日

第3回 10月5日

第4回 12月12日

#### 2) 「医学図書館」(年4号)の刊行

(1) 定期刊行を維持した。

① 「医学図書館」64巻2号 2017.6.20 刊行

② 「医学図書館」64巻3号 2017.9.20 刊行

特集：病院図書室

③ 「医学図書館」64巻4号 2017.12.20 刊行

④ 「医学図書館」65巻1号 2018.1 発行

特集：ミニ展示から資料室展示まで～医学系図書館の展示 / JMLA コア研修

#### 3) 編集委員の補充をし、編集体制を強化した。

編集支援システムを更新し、編集作業の効率化を図った。

#### 4) 本誌電子化についての検討

バックナンバーのうち、2009-2010年分のPDFをJ-STAGEへ登録することを計画

し、J-STAGE への登録作業について検討した。登録代行を委託することも含めて継続して検討することとなった。

### 3. その他の報告事項

- 1) レファレンス事例集が 100 号まで掲載された記念として、2018 年度に記念企画を行うこととした。

## IV. 出版委員会

### 1. 委員

担当理事 水上 則子（京大医図）  
委員 長 白土 裕子（医学中央雑誌刊行会）  
委員 吉新 裕昭（獨協医大）、原 千延（国医情）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

- 第 1 回 6 月 5 日 2017 年度の出版計画について、その他
- 第 2 回 9 月 5 日 今後の電子書籍出版計画について、日図協からの依頼について、その他
- 第 3 回 12 月 5 日 今後の電子書籍出版計画について、電子書籍の誤植対応について、その他
- 第 4 回 3 月 6 日 （予定）2018 年度の出版計画について、2018 年度事業計画について

#### 2) 出版について

- (1) 2017 年度発行の書籍については、該当のワーキンググループ/著者と連携して発行を終了する。
  - ① 「米国国立医学図書館分類法 2016 年度版日本語版」の冊子を 6 月 19 日付で刊行した。会員価格の適用を行った。
  - ② 「米国国立医学図書館分類法 2016 年度版日本語版」の電子版について発行した。
- (2) 2017 年度に増刷・改訂予定となっていない書籍についても、在庫状況や内容を考慮して今後の増刷・改訂を計画していく。
  - ① 「わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド検索事例付」
  - ② 新規出版について

### 3. その他の報告事項

電子書籍の発行について

### 4. 今後の課題

- 1) 電子書籍の発行形態 (ePub 形式への対応等) についての検討
- 2) 出版時の著作権ポリシー (著作権の譲渡) についてさらに協議する。

## V. 学術情報コンソーシアム委員会

### 1. 委員

- 担当理事 富田 麻子 (日医大中)  
委員長 田口 宣行 (埼玉大)  
委員 角家 永 (慶大医)、川島 恵里香 (東医大)、鷹野 祐子 (都医学研)、  
登坂 善四郎 (神奈こ)、宮本 高行 (阪医大)

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

- 第1回 6月20日  
第2回 8月29日  
第3回 1月10日

#### 2) コンソーシアム提案交渉

日本薬学図書館協議会 (JPLA) 雑誌問題検討委員会と合同で、出版元・代理店と 2018 年契約に向けたコンソーシアム提案の交渉を延べ 20 回、2019 年契約に向けた交渉を 1 回行った。

#### 3) コンソーシアム提案の充実

病院部会との協力体制を継続することで病院向けの提案内容を充実させた。また、委員の粘り強い交渉の成果で、JUSTICE にはない JMLA/JPLA 独自のトライアルや、割引率の引き出しに成功した。

#### 4) コンソーシアム説明会の開催

JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、コンソーシアム説明会を京都と東京で開催した。京都説明会では近畿地区会に協力いただいた。この数年、東京会場として使用してきたマイナビルームが従来の条件で利用できなくなったため、経費、利便性を考慮した結果、全水道会館を利用した。参加者からは概ね好評であった。

##### (1) 京都会場：2017年9月1日 (金) 京都テルサ

- 参加者：43名 (JMLA24名、JPLA19名)  
参加企業：18社 (展示18社、プレゼンテーション18社)  
\*実行委員7名 (JMLA4名、JPLA3名) (参加者数に含む)

##### (2) 東京会場：2017年9月5日 (火) 全水道会館

- 参加者：104名 (JMLA67名、JPLA37名)  
参加企業：19社 (展示19社、プレゼンテーション18社)  
\*実行委員12名 (JMLA7名、JPLA5名) (参加者数に含む)

#### 5) 他コンソーシアムとの連携

大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) と AAAS/Science についての合同交渉

を行った。昨年は合意時期などの見解が合わず単独提案となったが、今回は合同提案となった。

### 3. その他の報告事項

- 1) 委員会名を「学術情報コンソーシアム委員会」に変更した。
- 2) コンソーシアム説明会に関するアンケートを実施した。結果はこれまで機関誌に掲載していたがホームページでの掲載のみとした。
- 3) コンソーシアム提案に関するアンケートを正会員 A、B を対象に行った。
- 4) コンソーシアム成立件数の調査を行った。
- 5) 2017年11月17日の関東地区会研修会において、田口委員長が「電子ジャーナルの契約について」と題した講演を行った。
- 6) Springer Nature 社のコンソーシアム提案撤退について、会員館に不利がないように確約を取るとともに、会員に対しても契約の際に問題がなかったかどうかのアンケートを行った。この件については、今後も委員会として対応を続けていく。

### 4. 今後の課題

- 1) 出版社側の「国内1提案」の方針による提案減への対応
- 2) 他コンソーシアムの動向への注視

## VI. 教育・研究委員会

### 1. 委員

担当理事 酒井 由紀子（個人）

委員長 加藤 砂織（東女医大）

副委員長 西村 志保（日医大中）

委員 大瀬戸 貴己（奈医大）、佐藤 正恵（個人）、佐山 暁子（聖路加）、  
三谷 三恵子（慶大医）

**JMLA コア研修ワーキンググループ（2017年11月末日まで）**

グループ長 小松崎 直子（日歯大）

委員 尾形 沙由美（聖マ医）

**JMLA コア研修ワーキンググループ（2017年11月1日から）**

グループ長 角田 ともえ（東海大伊）

委員 岩間 未乃里（北里白）

委員 関口 祥子（東歯大）

**JMLA 学術集会ワーキンググループ**

グループ長 吉沢 亜季子（慶大医）（2018年2月末日まで）

委員 工藤 千絵（帝京大医）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況



1) 委員会の開催

第1回 7月13日

第2回 9月22日

第3回 12月15日

第4回 2月9日

JMLA コア研修ワーキンググループ会議

第1回 6月6日 (電子メールによる書面会議)

第2回 7月7日

第3回 10月13日

第4回 12月15日 (教育・研究委員会との合同会議)

第5回 1月25日

第6回 2月26日 (電子メールによる書面会議)

第7回 3月23日

JMLA 学術集会ワーキンググループ会議

第1回 4月21日

第2回 6月20日

第3回 11月13日

第4回 1月19日

2) 第2回 JMLA コア研修開催

日程: 2017年8月7日(月)～8日(火)

会場: Learning Square 新橋

受講者数: 49名 (部分参加1名含む: JMLA36名、その他13名)

3) 第2回 JMLA 学術集会開催

日程: 2017年5月20日(土)

会場: 聖路加国際大学 アリス・セントジョン メモリアルホール

午前: 研究発表5題 (KMLA 招待発表含む)

午後: CE コース

「コクランと日本支部の活動ー医学図書館による研究支援のあり方を考えるー」

講演1「コクラン系統的レビューの作成と図書館員の関わり」

講演2「人工知能搭載 Web Soft と Social Net Work を利用した教育的効率的なガイドラインのための系統的レビュー作成ーリハビリ栄養ガイドラインのための系統的レビューでの経験ー」

参加者数 139名 (JMLA134名、その他5名)

4) 第19回図書館総合展フォーラム (JMLA/JPLA 共催)

日程: 2017年11月9日(木) 13:00～14:30

会場: パシフィコ横浜 第3会場 (アネックスホール 203)

テーマ: 「医療系図書館のシェアード・ライブラリーの可能性」

参加者数: 132名 (JMLA40名、JPLA21名、その他71名)

5) 助成募集

(1) 研究助成

2018年度の募集をおこなった。1件の応募があり、審査の上理事会に推薦した。

## (2) 海外研修助成

MLA International Visiting Health Information Professionals Program (I-VIP) 派遣者公募を含める形で2018年度の募集をおこなった。応募はなかった。

### 6) JMLA-CE 登録制度の周知と実施

2017年度は15件の申請を受け付け、審査後、認定資格運営委員会にポイント数を確認の上、JMLA-CEとして登録した。一覧を本会ホームページに公開している。

### 7) コア研修ワーキンググループ募集

第一期ワーキンググループメンバーの任期満了のため、募集をおこなった。その結果3名の応募があり、決定した。

### 8) 2018年度以降の学術集会の実施時期の検討

第2回までの実施状況をもとに学術集会ワーキンググループで検討の結果、2018年度以降は12月上旬ごろに単独開催で実施することとした。

### 9) 「文献検索講習会ガイドライン 医中誌 Web・PubMed ベーシック・アドバンスト・プロフェッショナルコース」の見直し中級（アドバンスト）に EBM 支援に対応した検索技術と知識の習得を加える形で見直した。これまでの上級（プロフェッショナル）は診療ガイドラインワーキンググループ向けの研修へと位置づけが変わったため、ベーシック・アドバンストコースの2段階のレベル設定とした。

### 10) 2017年度文献検索演習中級開催

初の独立開催を計画し、実施した。

日 程：2017年12月4日（月）

会 場：Learning Square 新橋

受講者数：41名（JMLA36名、その他5名）

### 11) E-ラーニングの検討

E-ラーニングのプラットフォーム提供会社数社に見積およびプレゼンテーションを依頼し、採用候補を検討した。

## 3. その他の報告事項

1) 海外研修助成は、原則として帰国後直近の総会でのプレゼンテーションを前提に募集を行うこととした。

2) JMLA コア研修実施マニュアルを作成した。

## 4. 今後の課題

1) JMLA コア研修実施について、収容人数の多い会場での実施

2) 文献検索講習会中級について、2018年度以降は学術集会の JMLA-CE としての実施

3) 文献検索講習会について、効果的な実施方法

4) 研究助成について、原則として学術集会での研究発表を前提に募集を開始

5) E-ラーニングについて、運用の具体化に向けての継続検討

6) 海外助成について、MLA/ICS I-VIP の周知方法

## Ⅶ. 医療・健康情報委員会

### 1. 委員

担当理事 國見 裕美（個人）

委員長 市川 美智子（愛医大）

委員 岡田 光世（東邦大医）、西 さやか（東医大）、野中 沙矢香（杏大医）

医療・健康情報ワーキンググループ

グループ長 渡邊 基史（個人）

委員 荒木 亜紀子、佐竹 かおる、中島 ゆかり（個人）、舟田 彰（個人）、  
松田 公利

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 5月25日

第2回 9月1日

第3回 12月11日

第4回 2月6日

医療・健康情報ワーキンググループ会議

第1回 4月25日

#### 1) 研修会の企画と実施

##### (1) 第3回医療・健康情報サービス研修会

日付：2018年1月23日（火）～24日（水）

会場：大阪大学銀杏会館

受講者数：42名

両日参加33名、23日のみ9名、24日のみ0名

JMLA8名、JPLA1名、非会員34名

※JPLAの1名はJMLAにも含まれる。

注記：2018年度の第2回フォローアップ研修も関西で開催予定

#### 2) 講師育成の継続

(1) 「医療・健康情報サービス研修の進め方」「スライドのひな形」を、WGが中心となって改訂作業中。2018年度公開予定

(2) 研修会参加者によるメーリングリストに、9名が新規で参加した。

#### 3) 医療・健康情報サービスの現状把握

(1) 会員統計に「10.協力」の項目を追加し実施した。

(2) 公立図書館における医療・健康情報サービス及び病院における患者図書サービスの現状調査を検討したが精査が必要と判断し、今年度の実施は見送り、2018年度以降に持ち越しとした。

### 3. その他の報告事項

2016年度に出版した『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス第3版』について、誤りが数点あることから、正誤表を作成中

#### 4. 今後の課題

- 1) 国内における医療・健康情報サービスの現状調査方法に関する検討
- 2) 研修会講義科目の、E-ラーニングでの提供
- 3) 研修会運営方法の検証およびマニュアル整備

## VIII. 認定資格運営委員会

### 1. 委員

担当理事 北川 正路（慈恵大）

委員長 阿部 潤也（東歯大）

委員 小林 晴子（愛医大）、中島 裕美子（埼医大）、永田 治樹（立教大）、  
山崎 むつみ（静岡がん）、山下 ユミ（京府医大）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 5月26日

第2回 8月30日

第3回 11月2日

第4回 2月8日

#### 2) 申請募集と認定審査

##### (1) 第28回募集（2017年7月受付、9月認定）

審査件数：8

認定件数：8（基礎7、中級[更新]1、上級0）

##### (2) 第29回募集（2018年1月受付、3月認定）

審査件数：10

認定件数：10（基礎9、中級[更新]1、上級0）

##### (3) 資格取得者の現存数

2018年4月現在（第29回認定後）443

（基礎377、中級16、上級50）

#### 3) ポイント制度の改訂

コア研修協力委員のポイントを追加した。

「Ⅱ-05 授業の講師のポイント数」についての現ポイント制度の見直しや、E-ラーニングの項目の追加の必要性について委員会内で議論したが、実情を十分に把握することができず、ポイント制度の改訂は次年度の継続課題となった。

#### 4) 申請促進のための情報発信

申請方法を分かりやすくするために、申請の手引き、今後のスケジュールを適宜改

訂した。

申請を広く呼び掛けるために、関連雑誌や関連団体のメーリングリストに案内を掲載した。

5) 各種イベントのポイント対象可否についての事前確認への対応

保健・医療その他関連領域の図書館事業に関するイベントのポイント対象可否についての事前確認に対応した。各イベントでスケジュールの組み方が異なるため（休憩時間の取り方、各講義の時間など）、本委員会内で一定の基準で判断できるように調整をして、その判断基準をルール化することを計画した。

6) 司書資格なしの方への対応

司書資格なしの方へは、事前に問合せが必要であることを Web サイトに掲載した。司書資格なしの申請者には、司書講習で受講が必要な各科目の内容に関する知識を習得していることを説明した申告書の提出を依頼することとした。申告書のフォームは、認定資格運営委員課にて用意する。

7) 公共図書館員への対応について

公共図書館員からの申請や申請に関する問合せが増加しているが、現在の諸規定では、公共図書館員の審査が困難である。公共図書館員の資格認定のために考慮すべき点について、9月1日に、医療・健康情報委員会と認定資格運営委員会の担当者にて意見交換をした。

認定資格の対象を医療・健康情報サービスに取り組んでいる公共図書館員へと拡大していく案について理事会に報告したところ、ヘルスサイエンス情報専門員と公共図書館員とは専門性が異なる面もあるため、公共図書館員向けの制度を事業として取り入れるかについて本委員会の意向をまとめることとなった。

8) その他

申請書類で記載誤りや記載漏れが目立つ項目のフォームを変更した。

3. 今後の課題

- 1) 第27回(2017年1月)から、中上級の申請に「モデル活動申告書」の提出が導入されたが、モデル活動のレベルのⅠとⅡの判断方法をより明確にする必要がある。
- 2) 第27回(2017年1月)からの中上級の申請者の減少の原因を調査する。

## Ⅷ. 受託事業委員会

1. 委員

担当理事 河合 富士美（聖路加）、諏訪部 直子（杏大医）

委員長 河合 富士美（聖路加）

委員 総務会兼務

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- (1) 委員会としては会議は持たず、総務会で全体を統括した。
- (2) それぞれの事業はワーキンググループを組織するなどして活動した。
- 2) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ
  - ※詳細は事業別報告を参照
- 3) 医学中央雑誌刊行会受託事業
  - (1) 医療における情報のバリュー・スタディ終了
  - (2) 米国国立医学図書館分類法 (NLMC) 日本語版データベース作成を開始した。
  - ※詳細は事業別報告を参照

#### 4. 今後の課題

- 1) 米国国立医学図書館分類法 (NLMC) 日本語版データベース作成の継続 (2年目)
- 2) 新規受託事業の募集

#### 5. 事業別報告

##### 1) 診療ガイドラインワーキンググループ

###### (1) 委員

担当理事 諏訪部 直子 (杏大医)

グループ長 阿部 信一 (慈恵大)

委 員 天野 いづみ (静岡赤)、石原 千尋 (名大医)、柿田 憲広 (個人)、加藤 恵子 (国がん)、河合 富士美 (聖路加)、川崎 かおる (岩医大)、國見 裕美 (個人)、小嶋 智美 (個人)、佐藤 正恵 (個人)、高橋 奈津子 (聖隷浜)、寺澤 裕子 (個人)、成田 ナツキ (個人)、堀米 拓哉 (日大歯)、満岡 侑子 (連中)、森正 智子 (昭和大)、山口 直比古 (個人)、山崎 むつみ (静岡がん)、吉野 晴美 (個人)、愛知医科大学医学情報センター (代表: 小林 晴子)、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館 (代表: 中瀬 範子)、杏林大学医学図書館 (代表: 諏訪部 直子)、慶應義塾大学信濃町メディアセンター (代表: 三谷 三恵子)、滋賀医科大学附属図書館 (代表: 寺升 夕希)、信州大学附属図書館医学部図書館 (代表: 岩井 雅史)、東京慈恵会医科大学学術情報センター (代表: 阿部 信一)、東京女子医科大学図書館 (代表: 三浦 裕子)、東邦大学医学メディアセンター (代表: 大谷 裕)、奈良県立医科大学附属図書館 (代表: 鈴木 孝明)、日本医科大学図書館 (代表: 渡辺 由美) 【下線＝リーダー】

###### (2) 事業計画と年間目標の達成状況

###### ①委員会の開催

診療ガイドライン文献検索ワークショップ実行委員会 2017年8月17日

受託事業委員会 診療ガイドラインワーキンググループグループ長、担当理事会議 2018年2月15日

第1回WG会議 2018年3月16日

###### ②受託状況

20 学会・研究班より 25 ガイドラインを新規に受託した。(詳細は別紙参照)

③研修会の開催

今回から名称を「診療ガイドライン文献検索ワークショップ」に改め、実行委員会制をとった。実行委員には、リーダーと柿田憲広(個人)、榊原佐知子(愛医大)、満岡侑子(連中)があたった。(※満岡委員は 2018 年 2 月で退任)

2018 年 3 月 15 日～16 日に診療ガイドライン文献検索ワークショップを聖路加国際大学にて開催した。18 名(内、非会員 1 名)が受講した。

④CQ と検索式のデータベース化、文献検索リストや CQ・KW・代表文献リスト等関係文書の集中管理は運用試験に着手した。

⑤診療ガイドライン、系統的レビュー作成に関する連絡会への参加

システマティック・レビューや診療ガイドライン作成のための文献検索に関わりのある、他団体との連絡会に、グループ長と理事が参加した。

(3) 今後の課題

①文献検索講習会上級を発展的解消して開催した、診療ガイドライン文献検索ワークショップの開催時期、開催方法について、さらに改善を図る。

②CQ と検索式のデータベース化、文献検索リストや CQ・KW・代表文献リスト等関係文書の集中管理を進める。

③診療ガイドライン作成の需要に対し、対応できるワーキングメンバーとリーダーが不足しているため、拡充・養成する。

2) 医療における情報のバリュー・スタディ・ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美(聖路加)、諏訪部 直子(杏大医)

グループ長 酒井 由紀子(個人)

委員 佐藤 正恵(個人)、渡辺 真希子(神奈こ)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第 1 回 3 月 14 日 論文・報告書準備

第 2 回 2 月 13 日 第 2 期結果分析・発表計画

②外部の報告・発表先の選定と準備

・5 月に MLA 年次大会にて佐藤正恵委員が第二期調査結果についてポスター発表を行った。なお、渡航費には承認された海外助成を適用した。また、参加報告を投稿し、『医学図書館』64 巻 4 号に掲載した。

・9 月に論文投稿先の選定を行い、投稿規程を確認したところ、予定になかった調査データの公開が必要であることがわかった。そこで、同データの扱いを承認されていた慶應義塾大学文学部研究倫理審査委員会に一部変更を申請し、10 月に承認を得た。その後、研究協力病院へも連絡を行い、データ登録先の選定を行った。また、雑誌掲載論文の内容を報告書や JMLA のホームページに掲載することを計画していたため権利関係を事前に問い合わせたところ、クリエイティブ・コモンズの CC-BY を付すため、出典を示せば改変や複製が許諾不要で、翻訳や掲載が自由であることを確認した。

・3月中に論文投稿および報告書と JMLA ホームページの準備を行い、4月以降に論文受理後、速やかに報告書印刷とホームページの掲載を行う予定である。

(3) 今後の課題

①投稿論文受理と APC 支払い (2018年7月頃)

②報告書作成と協会ホームページへの掲載 (2018年7月頃)

3) 米国国立医学図書館分類法 (NLMC) 日本語版データベース作成ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)、諏訪部 直子 (杏大医)

グループ長 橋本 郷史 (東邦大医)

委員 鷹野 祐子 (都医学研)、寺升 夕希 (滋医大)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 11月21日

第2回 3月8日

(3) 検討事項

①グループ長の選出

橋本 郷史 (東邦大医) が互選によりグループ長に選出された。

②事業計画の確認

- ・予算と作業計画を確認した。
- ・データベースの概要につき意見交換した。
- ・仕様書案を検討した。

(4) 今後の課題

①サーバの設置先

②業者の選定



2017年度受託事業 診療ガイドライン一覧		
	ガイドライン名	学会等
GL1701	バセドウ病治療ガイドライン	日本甲状腺学会
GL1702	大学における標準的な健診項目についてのガイドライン	学生健診を基盤とした共有型ライフロングPHRの構築と利活用促進のための標準化モデル創出に関する研究」班
GL1703	内分泌比活性副腎腫瘍診療ガイドライン	日本泌尿器科学会
GL1704	原発不明がん診療ガイドライン	日本臨床腫瘍学会
GL1705	産婦人科内視鏡手術ガイドライン2018年改訂版	日本産科婦人科内視鏡学会
GL1706	肺癌放射線治療のためのCTV作成手引き	日本放射線腫瘍学研究機構
GL1707	肛門疾患診療ガイドライン:痔核・痔瘻・裂肛改訂版	日本大腸肛門病学会
GL1708	泌尿器腹腔鏡手術ガイドライン	日本泌尿器内視鏡学会
GL1709	腹腔外発生デスマイド型線維腫症診療ガイドライン	腹腔外発生デスマイド型線維腫症患者の診断基準、重症度分類および診療ガイドライン確立に向けた研究班
GL1710	多発性筋炎／皮膚筋炎ガイドライン	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業)研究分担者
GL1711	がん免疫療法ガイドライン 改訂版	日本臨床腫瘍学会
GL1712	居宅療養者への栄養介入法に関するレビュー	厚生労働科学研究費補助金
GL1713	肺癌ガイドライン2018	日本肺癌学会
GL1714	皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第3版」メラノーマガイドライン	日本皮膚科学会
GL1715	「皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第3版」皮膚血管肉腫ガイドライン	日本皮膚科学会
GL1716	成長期の下顎前突症に対する診断・治療プロトコル	日本矯正歯科学会
GL1717	皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第3版」外陰部パジェット病ガイドライン	日本皮膚科学会
GL1718	小児ネフローゼ診療ガイドライン改訂版	「小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の確立」研究班
GL1719	顎変形症治療の手引き	日本顎変形症学会
GL1720	内視鏡外科診療ガイドライン(改訂)	日本内視鏡外科学会
GL1721	甲状腺ホルモン不応症ガイドライン	日本甲状腺学会
GL1722	GIST診療ガイドライン(改訂)	日本癌治療学会
GL1723	皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第3版」皮膚リンパ腫診療ガイドライン	日本皮膚科学会
GL1724	「皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第3版」有棘細胞癌診療ガイドライン	日本皮膚科学会

## X. 協会賞・奨励賞選考委員会

### 1. 委員

担当理事 中西 秀彦（個人）

委員長 石井 保志（東医歯大）

委員 今泉 千代（日看協）、泉 峰子（科学院）、森正 智子（昭和大）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 6月16日

第2回 2月2日

#### 2) 2017年度協会賞・奨励賞の選考

(1) 奨励賞について、2016年度から著作物だけでなく、新たに活動も受賞対象とすることになったため、2017年度の応募要項には、「活動について雑誌発表ない場合は、会報記事等、何らかのエビデンスを付して欲しい」旨を追記した。

#### (2) 協会賞・奨励賞候補業績の選考

第2回選考委員会で候補業績を選考し、理事会に報告を行った。

### 3. 今後の課題

#### 1) 2018年度協会賞・奨励賞の選考

#### 2) 過去の協会賞、奨励賞受賞一覧のHP公開

#### 3) 委員の欠員補充（2名を予定）

## XI. 国際交流委員会

### 1. 委員

担当理事 諏訪部 直子（杏大医）

委員長 佐藤 晋巨（聖路加）

委員 玄馬 寛子（倉敷中病）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 10月26日

#### 2) 韓国医学図書館協会（以下、KMLA）との連携

##### (1) KMLA との二者協定に基づく連携事業の継続

##### ① 2017年度第88回JMLA総会へ来賓2名を招聘

総会前日に、総務会メンバーとビジネスミーティングを行った。

総会において Ms. Myung-Ah Shim(Samsung Medical Center)が来賓挨拶をした。  
学術集会の研究発表の部において Ms. Hyun Young Han (Ewha Womans  
University) が”Quality Improvement”を発表した。

東京大学医学図書館と慶應義塾大学信濃町メディアセンターを見学した。

② 2017 年度 KMLA 秋季学術大会へ理事と会員の 2 名を派遣

大会開催日程：2017 年 10 月 18 日(水)～21 日(土)

派遣者

水上則子（京大医）は開会式にて挨拶した。

市川美智子 氏（愛医大）は「日本における一般市民への医療・健康情報サービスの広がり」と JMLA による公共図書館へのサポート」を発表した。

③ 2018 年度第 89 回 JMLA 総会へ KMLA 会員 2 名の招聘の準備を開始

3) 米国医学図書館協会（以下、MLA）との連携

(1) MLA との二者協定に基づく連携事業の継続

①MLA 年次大会への 国際交流派遣者の公募

将来、本会と MLA 間の交流に貢献できる会員を育成することを目的に、2018 年 5 月 18 日～23 日に米国のアトランタ市で開催される MLA の年次総会への国際交流派遣者 1 名を公募した。応募者 1 名を理事会へ推薦し、派遣が決定した。

4) 台湾医学図書館学会（以下、TMLA）との連携

(1) TMLA 2017 Conference へ会員 1 名を派遣

大会開催日程：2017 年 3 月 30 日（木）～31 日（金）

派遣者

佐山暁子（聖路加）は”How to more efficiently select databases in systematic reviews for CPGs? Verification of the NICE Gallstone Disease Guidelines”のポスター発表をした。

(2) TMLA に協会間の国際交流の可能性について打診

メールにて打診した。

5) 英語での国際交流活動の情報発信

(1) 国際交流委員会ホームページの更新

更新の準備を行った。

(2) JMLA 関連名称の英語表記の改訂

委員会名称の変更に合わせて英語表記を改訂した。

6) 海外からの医学図書館見学希望者への対応

今年度は見学希望者がいなかった。

3. 今後の課題

1) 台湾医学図書館学会（Taiwan Medical Library Association）との連携

2) 英語での国際交流活動の情報発信

## XII. 組織・制度委員会

### 1. 委員

担当理事 尾崎 聖太郎（麻布大）

委員長 新谷 知之（東海大伊）

委員 加藤 恵子（国がん）、土佐 智義（個人）、森戸 重男（獨協医大）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 7月24日

第2回 10月10日

第3回 12月18日

第4回 2月6日

#### 2) 規程、細則等の改正

以下の規程等の改正案を作成し、理事会に提出した。各改正案は、理事会で審議の結果、承認された。

##### (1) 特定非営利活動法人日本医学図書館協会中央事務局職員就業規則

2018年2月27日から施行

##### (2) 特定非営利活動法人日本医学図書館協会中央事務局職員給与支給内規

2017年10月30日から施行

##### (3) 教育・研究委員会内規

2018年2月27日から施行

#### 3) 著作権規程の検討

本会が出版する書籍等著作物における執筆者の著作権に関する基本事項を定めた規程の策定について検討した。

#### 4) 総会委任状及び表決権の検討

総会における委任状手続き及び表決権について、現行規程及び票数等の運用方法を検討した。変更点は無く現状維持としたが、委任状及び表決権に関する本会の考え方について、会員に向けて分かりやすく解説した資料を作成することとした。

#### 5) 他機関との協力に関する内規の検討

現行規程の改訂を検討した。

#### 6) 中央事務局パートタイム職員就業規則の検討

就業規則及び労働条件通知書を検討した。

### 3. その他の報告事項

改定された規程類を、本会ホームページへ掲載した。

### 4. 今後の課題

#### 1) 規程等の改正及び制定

- 2) 用語・表記の統一
- 3) 規程全般に渡る整合性の確認・体系化

### ⅩⅢ. 部会 病院部会

#### 1. 委員

部会長 佐藤 正恵（個人）  
幹事 泉 峰子（科学院）、加藤 恵子（国がん）、春日井 泉江（個人）、  
高崎 千晶（個人）、満岡 侑子（連中）、玄馬 寛子（倉敷中病）

#### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

##### 1) 部会の開催

第1回 2017年5月19日（聖路加国際大学会議室）

内容：2017年度事業計画について

第2回 2018年2月16日（国立がん研究センター会議室）

内容：見学会・研修会準備、次年度幹事交代、共有ファイル管理について

##### 2) 定例会の開催

第1回 5月20日 JMLA 総会 休憩時間中に開催

参加：会員 17人

##### 3) 見学会の実施

2018年2月16日午後 見学先：国立がん研究センター

参加：会員 25人 非会員 3人

##### 4) 研修会の実施

(1) 見学会と同日午前中に実施

(2) 内容：「シソーラスを究める」「専門職能力開発プログラム」研修プログラム「保健・医療分野の情報サービス」に基づく（JMLA-CE コース認定 2017-014）

講師：山口直比古氏（個人）、白土裕子氏（医中誌）

目的：PubMed の MeSH、医中誌シソーラスについて、より専門的な知識を深める。

参加：会員 24人 非会員 3人

##### 5) メーリングリストによる情報交換